

## 巻頭対談

# 四国西南端で漁業地域の最先端を走る

## ～市場統合・衛生管理と地域防災の先進地～



## 浦尻和伸

すくも湾漁業協同組合代表理事 組合長

1958年生まれ。2001年6月より、すくも湾漁業協同組合代表理事組合長。1999年から2015年まで宿毛市議会議員を4期務める。



## 高吉晋吾

(一財) 漁港漁場漁村総合研究所 理事長

1957年生まれ。2018年8月より(一財)漁港漁場漁村総合研究所理事長。

四国の最も西南に位置する高知県宿毛湾において広域合併により誕生した「すくも湾漁協」は、管内の市場を統合して全国に先駆けた高度衛生管理型漁港の整備を行うとともに、迫り来る南海トラフ地震・津波に備えて漁協独自の水産業BCPを策定するなど、次々に先進的な取組を行っています。

その「すくも湾漁協」の浦尻和伸組合長に、その先取に富んだ行動の背景、とりまとめの苦労談や今後の展望について、当研究所理事長の高吉がお聞きしました(2019年2月8日すくも湾漁協にて)。

## 組合合併を振り返る

**高吉** 私はここ田ノ浦漁港を訪ねるのは今回で3回目になります。以前駆け足ですが浦尻組合長の熱意あふれるお話をお聞きし、一度じっくりとお話を伺いたいと思っていました。早速ですが、まず組合合併に至るまでのことについてお聞きします。

**浦尻** 自分は昭和53年に大海漁協という小さな組合に就職しました。当時は赤字を抱え宿毛湾内で最も経営状況の厳しい組合でしたが、若者がものを言える漁協で、高知県初の職員理事になり、後に組合長となりました。

宿毛湾内は養殖が盛んでしたが、不況等により倒産する業者が出るような厳しい状況を迎え、バブルが崩壊した平成5年頃から一気に合併の機運が高まりました。平成13年1月1日に16漁協が合併してすくも湾漁協が発足しましたが、発足直後の決算で大きな赤字を計上しました。この問題を解決せよという使命を受ける形で、13年6月に自分が組合長になりました。宿毛市と大月町の支援を受けて立ち直ることができました。大月町議会に呼ばれ4時間にわたり説明や答弁をして、ダメかと思った最後に一転して支援を受けられることになりました。

一息つく間もなく、その年の9月には100年に一度と言われるような大水害が発生し、養殖魚が大量に死滅しました。この時ほど天を恨んだことはありません。

## 衛生管理型統合市場の整備が起爆剤に

**高吉** 今般の水産改革の中でも産地市場の統合や品質・衛生管理の強化による物流改革がうたわれています。田ノ浦漁港に市場を統合整備するにあたり、統合される側の市場関係者との調整などご苦労があったのではないのでしょうか。

**浦尻** 各浜には小さな市場や荷捌き所があり、組合合併当初は、それらを統合して現在のすくも湾中央市場がある田ノ浦漁港と既存の片島市場の二つの市場を並立させることとしていました。しかし、運営上非効率であるこ

と等から、田ノ浦漁港の市場に統合することにしました。市議会で市場合併について反対陳情があったり、組合合併時の約束と違うと嘘つき呼ばわりされたりするなど大変でした。

以前は宿毛湾の魚を宿毛湾内の市場だけで買いとるだけの力がありませんでしたが、宿毛湾で捕れた魚は全部田ノ浦漁港に受け入れることを宣言したため、他地域の市場ともめたこともあります。

しかし苦しいことばかりではありません。平成17年11月にすくも湾中央市場の一期工事が終了した翌18年には50年ぶりにマイワシが大漁となり、雰囲気が一変しました。加工業者が参入してくるなど活気が出てきました。

**高吉** 新しい市場は全国に先駆けて衛生管理型の市場となりました。衛生管理型市場にしようというのはどのような経緯でしょうか。

**浦尻** そもそも市場というものに対する知識が不足していましたが、合併の効果を上げ、漁業者の所得向上を実現するために新たな市場を整備することにしたのです。

県、市、町、そして計画当初から関わってきた漁村総研から、これからは衛生管理型の市場でなければいけないと強く言われました。閉鎖型市場ではありませんが、防鳥対策、抗菌床等の整備、パレット使用による水産物直置き禁止を行いました。平成19年度から水産基盤整備事業で荷捌き所が整備できるようになり、二期工事については、公共事業による整備の第一号として採択されました。

平成24年には優良衛生品質管理市場に認定されました。これまで国内外から千人を超える見学者が訪れています。

**高吉** 衛生管理は漁業者、仲買人、輸送業者など多くの人の理解と協力がなければうまくいきません、衛生管理をどのように徹底されていますか。

**浦尻** 時間の経過とともにそこまで厳しくしなくてもよいのではないかとという雰囲気が出てきました。衛生管理

## すくも湾漁協の概要

地域 高知県宿毛市、大月町

平成13年1月 宿毛湾内の20漁協の内16漁協が合併して発足し、その後2漁協が参加

平成17年 田ノ浦漁港にすくも湾中央市場を整備

平成25年 平成16年に7つあった市場が1つの市場に統合

組合員数 1,635人 (H29.3.31 現在、準組合員含む)

主要漁業 中小型旋網、釣り、定置網、養殖

市場取扱量 1万4千トン

取扱金額 16億円



田ノ浦漁港  
すくも湾中央市場  
すくも湾漁協本所



の徹底には、職員の育成、市場関係者への地道な声かけが重要です。昨日も衛生管理講習会を開催しました。市場の職員にも厳しく指導し、「衛生管理を売りにしている市場で食中毒が起きたら一発でアウトになるので、そこをよく分かってくれ。」と語っています。規則を守らない漁業者には「いやなら守らなくてもいい、その代わりに罰金を取るぞ。」と語って脅かしています。

**高吉** よく衛生管理をしてもコストがかかるだけで魚価が上がらないと言われることがあります。私は衛生管理を行うことは食品を扱う上でのスタンダードだと思っていますが、目に見える効果に関係者から求められるのが実状です。すくも湾漁協では、市場の統合と併せて衛生管理型市場を整備したことにより、販路の拡大や魚価の向上が実現できたと聞いていますが、最近の状況はどうでしょうか。

**浦尻** 市場統合により豊富な魚種が大量に水揚げされるようになったことから、仲買業者の参入が増え、魚価単価が上がりました。現在も他の地域より高値で取引されています。仲買が量販店、ホテル、飲食店と取引をしたり、加工業者が東京の学校給食に提供するといった新たな動きも広がっています。若い職員が多い元気な加工場も出てきました。漁協としても漁業者の所得向上のため、買参権を取得して漁協の加工場で加工を行っています。

冷海水施設や高速選別機を導入し、鮮度向上を実現し

たことも貢献していると思います。もっとも選別機を導入した当初は、身質が軟らかくなるので買わないと言っていた業者が、今では選別機を通した魚でなければ買わないと言っているぐらいです。

**高吉** これから市場の統合や衛生管理に取り組もうという地域に勇気を与えるお話ですね。昨年開業した豊洲市場も閉鎖型の高度衛生管理型の市場になりました。すくも湾のような産地市場から中央の消費地市場まで衛生管理のネットワークができることにより、安全・安心や鮮度・品質保持の面から市場の評価が一層高まることを期待しています。

### 養殖業の振興と輸出にチャレンジ

**高吉** 国では需要が旺盛な海外市場への輸出も視野に養殖業に力を入れようとしています。宿毛湾では養殖業も盛んなようですが、養殖業の現状をお伺いします。

**浦尻** 宿毛湾はリアス式海岸で水温も高いことから養殖に適しています。昔、生餌を与えていた頃は約400の業者がいましたが、だんだんと淘汰され、現在は50業者程度となりました。近年は比較的経営は安定しています。

宿毛湾のブリは他の海域よりも成長が早く、1年で5kgほどになるため、早く出荷できるという特徴があります。しかし人工種苗が使われるようになり、他海域での成長が早くなってくると、うかうかしてはいられなくなります。鯛も適度な脂がのり天然物よりおいしく感じます。生け簀から逃げた鯛が500円、生け簀の中の鯛が800円と値段が違うことがあり、そりゃおかしいだろうと笑うことがあります。離島の沖の島ではマグロの養殖も行われています。

**高吉** すくも湾漁協の管内での輸出への取組み状況や今後の展望についてお聞かせください

**浦尻** 当漁協は、3年前に設立した高知県養殖魚輸出促進協議会に参加しており、餌料販売業者をはじめ関係する業者が集まり、JETRO等の指導を受けながら、ベトナム、シンガポール、香港等の見本市に参加しています。加工業者の中にはコンテナで水産物を輸出する社が現れるなど効果も少しずつですが出てきました。EU—HACCPは難しいので、まずは東南アジアを狙うことにしています。国外への視野を広げるなどいろいろと勉強してきたことにより、輸出はそれほど難しいものではないことが分かって来ました。

### 迫り来る南海トラフ巨大地震に備える

**高吉** 南海トラフ地震が今後30年以内に70～80%の確率で発生すると言われています。まずは、命を守ることが最優先されますが、すくも湾漁協では就業中の職員

や漁業関係者のための避難マニュアルを作られました。

さらに、災害が起きた後は速やかに業務を再開できるよう、すくも湾漁協の業務についての「水産事業継続計画(BCP)」を策定され、これが高知県下の他の漁協のモデル計画となっているようですね。これらの先駆的な取組の契機となったことは何でしょうか。

**浦尻** まずは漁業者の人命を守り、次に元通りの仕事ができるようにすることが必要です。東日本大震災の映像を繰り返し見て、南海トラフの地震が発生したら、漁業者や市場で働く多くの人をどうしたら守ることができるのかを考えなければならぬと思います。避難マニュアルを作りました。またこれだけのお金を投じた荷捌き所や設備をどのようにして守り、早く復旧させたいのかと考えていたところに、県からBCPを作らないかという話があり飛びつきました。

策定後は避難訓練、AEDや人工呼吸の訓練も実施しています。

**高吉** 東日本大震災では漁船が沖出しをする際に被災するケースがありました。例えば岩手県では、津波発生時に操業中の漁船が安全な水域に避難できるよう漁船を使った実証実験も行いながら避難ルールの策定を行っており、漁村総研がお手伝いしています。

**浦尻** すくも湾漁協では、海上保安本部と津波防災勉強会を開催したり、海上での避難訓練も実施しています。陸で高台に逃げるように、漁船は避難海域(海の高台)までの避難訓練をしています。漁業者はとてもまじめに参加してくれます。道路が遮断された場合を想定し、船による物資の運搬訓練も実施しています。すくも湾漁協は遭難者の救助で表彰を受けたこともあるように、海上での救助訓練を以前から実施していたおかげで、地震津波に対する避難訓練、防災訓練を抵抗なく実施するこ



とができたと考えています。

**高吉** なるほど海難救助訓練などが行われてきた漁村では避難訓練の重要性についても理解されやすいということですね。避難計画や漁協のBCPを策定するにあたって難しかったことや工夫をされたことがありますか。

**浦尻** 当地域も過去に何度も地震や津波に遭っているのですが、私たち自身が直接被災した経験がないので、まず何をしたらよいか分かりませんでした。発生頻度の高い地震では、震度6弱、津波浸水深は3~5m、最大クラスの地震では10~15mの津波の発生が予測されています。

組合事務所の1階はガラス張りとし、津波が建物を通過する構造にしました。2階にはコンピュータ室と書庫を設備し、大切なデータと書類を管理しています。また、避難場所となっている旧保育園の一室を漁協の事務所として使えるようにしました。漁協の職員には防災士の資格を取得させたり、炊き出しなど市の防災訓練や講習会に派遣しています。

**高吉** 同時に被災する可能性が低い日本海側のJFしまねと相互支援協定を結ばれました。水産業界では先進的な取組だと思いますが、どのような経緯で締結に至ったのでしょうか。

**浦尻** JFしまねとは古くから交流があり、職員の相互派遣研修や、必要な水産物が不足する場合に助け合ったりする関係があります。鳥根県の大田市場を衛生管理型市場として整備する際には、すくも湾中央市場の構造などを大いに参考にされました。JFしまねと相互支援協定を結んだのは職員からの発案です。協定では、災害発生時の職員の派遣、市場業務に必要な資材の提供、水産物の委託販売、冷凍冷蔵庫等の施設使用を内容としています。実際に豪雨などが発生した際には、お互いに連絡を取り合い状況を確認し合う関係になっています。

ほかに長崎県、沖縄県、四国四県の漁協等とも長い交流があります。将来、漁協、県漁連、全漁連と全国での防災協定ができると、太平洋側が被災すれば日本海側が助けるといった形で島国日本皆が協力できるようになり、素晴らしいことだなと思っています。また、防災に限らず交流が進むと新たな物流が生まれるなどプラスの効果が広がってきます。

**高吉** 現在、私たち漁村総研では、当地域において、漁協に加え、行政、加工業者をはじめとした広く宿務湾地域の水産関係者を対象としたBCPの策定を支援しています。防災・減災対策について、今後さらに検討が必要とお考えのことはありますか。

**浦尻** 管内に廃船が多く、津波がくるとこれらが凶器に変わることを恐れています。そのため、漁協で土地を取

得し、廢船を集めて一次処理を行うこととしました。既に県内の中土佐町久礼で実施していたので、それを参考にしたいと思います。

また、漁協の取引データがなくなると仕事がストップするため、山口県と石川県にデータをバックアップしています。漁協では全国初めてではないでしょうか。

それから、昨年の豪雨では養殖魚の大量の死骸を処分する際に、県の土木部局と環境部局それぞれとの調整が必要でたいへん苦勞しました。地震津波ではなく洪水災害時の問題ですが、県、市町、漁協とで災害時に死んだ魚の処分方法について検討を始めました。管内各地から死んだ魚を処分場に運ぶのに汚水が漏れない特殊な構造のトラックもあるようなので所有する業者と協定を結ぶことも検討しています。

そして、災害対応の一番重要なことは指揮官である自分がつぶれないようにしなければならないと思っています。

### 漁村の活性化に外国人実習生も一役

**高吉** 全国的に人口が減少し、高齢化が進んでいます。漁村ではさらに進行しています。これからも全国各地で水産業・漁村が存続していくことは、水産物の供給のみならず、国土や環境の保全、文化の継承など多面的機能の発揮の観点から重要です。すくも湾の漁業後継者の状況や確保対策についてお伺いします。

**浦尻** 当漁協の組合員も全体的に減少しています。小釣り（沿岸小型の釣り）は減少していますが、養殖業は法人化しており比較的安定していますし、定置網も新しいやり方を取り入れ頑張っています。

旋網は厳しい状況です。資源の減少による水揚量の不安定さが経営を圧迫し、乗組員の高齢化が出漁日数を少なくしています。今年度から漁村の活性化や国際交流等を目的に旋網事業者へ外国人実習生を受け入れました。異文化の交流は保守的な漁村では受入が困難と思いましたが、実習生たちは漁村になじみ地域の神祭や様々な行事に積極的に参加しています。1月には地元行政主催の成人式にも参加しました。これからの漁業・漁村も国際化が進んでくると実感しています。

### あきらめない気持ちと人づくりが大切

**高吉** 最後に、すくも湾漁協の将来展望や水産業界・漁協のリーダーとして、心がけておられることをお聞かせください。

**浦尻** 本当にたいへんでしたが、改めて合併してよかったと思っています。なにごととも以前だめだったからとあきらめることなく、汗をかき、怒られても何度もぶつかることが大事だと考えています。合併から時間が経ち、



だんだんと合併当初の大変さを忘れてきてしまっているように感じる場合があります。またいずれ厳しい時代が来ると思いますので、経費の使い方などを締めておくとともに、利益を上げられる商社のような漁協となるよう指導をしていきたいと思っています。

漁協は職員が財産ですので、職員の育成に努めなければなりません。防疫士の資格を取らせて病理検査用の電子顕微鏡を覗けるようにしたり、漁協の監査士の資格を取らせたりしています。職員に対しては、仕事の時はとても厳しく指導しますが、仕事を離れると親しく話をするように心がけています。麻雀のメンツが足りないといって、夜中に電話をかけてくる職員がいたり、失恋の報告に来る職員もいます。また、漁協に来る人たちにも積極的に声をかけるようにしています。職員や組合員、その子供、家族などいつの間にか1,800人の連絡先が携帯電話に入っています。

将来は組合員のいろいろな相談に乗れるような福祉課を作り、高齢となった漁業者が海を見ながらゆっくりと過ごせる介護施設を漁協が提供することが私の夢です。これからも職員を大事に育て、組合を発展させ、次世代につないでいきたいと思っています。

**高吉** ここまで来られるには、浦尻さんの人柄と何度も困難に立ち向かう粘り強い気持ち、そして職員、組合員、自治体始め地域の関係者との心の交流や信頼があったからだと感じました。人づくりは私たち漁村総研にとっても最も重要な課題です。職員が調査研究に集中できる環境を整備したり、資格取得にチャレンジすることを奨励するなど資質の向上に努めることにしています。また、専門性を磨くとともに漁村の様々な課題に対応できる言わば町医者のような役割が果たせる目線を養えるようにと思っています。

今後も当地域では先進的な取組にチャレンジし続けられることを期待します。私たち漁村総研としてもそのお手伝いさせていただくことができれば幸いです。本日はどうもありがとうございました。